

令和7年度

学校教育目標

京都市立宕陰小中学校

◇学校教育目標

一人一人が輝き、ふるさとへの誇りと愛着をもった

人間性豊かな子どもの育成

〈資質・能力からの視点〉

将来の社会的自立に向けたコミュニケーション能力の育成

◇目指す子ども像

- ①夢や希望をもち、自ら粘り強く学習に取り組む子ども
- ②自他を大切にし、協力しながら問題を解決しようとする子ども
- ③ふるさとでの学びを通して、主体的・自律的な生き方やより良い社会を追求する子ども

◇重点目標

- ①夢や希望をもち、自ら粘り強く学習に取り組む子ども
 - ・学習環境作りと基本的学習規律の徹底
 - ・基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用に向けた授業改善
 - ・授業と連動した取組による家庭での自学自習習慣の確立
- ②自他を大切にし、協力しながら問題を解決しようとする子ども
 - ・コミュニケーション能力の育成を通じた、より良く生きる力の育成
 - ・道徳をはじめとする心をたがやす教育の充実による豊かな心の醸成
 - ・学級活動、児童生徒会活動、宕陰太鼓、部活動などを通じた他者理解と協働する力の醸成
- ③ふるさとでの学びを通して、主体的・自律的な生き方やより良い社会を追求する子ども
 - ・「挨拶」「時間」「言葉」の3つを大切にすることにより、自他の承認と規範意識の醸成
 - ・保健教育、食教育、安全教育のさらなる充実による健やかな体の育成
 - ・地域の自然や人材を活用した、人や自然を思いやる心の育成

◇目指す教職員像

- ・ 9年間を見通した一貫した指導・・・義務教育学校9年間を通して、児童生徒の成長を一貫して見守る。全教職員が連携して指導にあたり、課程、ステージ制を超えた情報共有や協力体制を強化し、児童生徒の継続的な成長を支える。
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの実現・・・児童生徒一人一人の特性や学習状況に応じた支援や指導を行い、協働的な学びの場を意図的に設定することにより児童生徒の社会性を育む。
- ・ 学び続ける教職員・・・常に学び続け、教育課題に対応できるよう継続的な研修と自己研鑽に努める。

◇目指す学校像

- ・ 個別最適な学びの推進・・・児童生徒一人一人の学びを最適化し、基礎学力の定着と主体性を高め、個性を伸長する教育を進める。
- ・ 協働的な学びの強化・・・全校活動や合同学習などを通して、児童生徒のコミュニケーション能力を高め、協働的な学びを促進することにより、社会性を育む。
- ・ 地域との連携・・・地域の自然や人材を活用し、ふるさとへの誇りと愛着を育む教育を推進する。

◇学校経営方針

- ・ 小中一貫教育の充実・・・少人数の利点、豊かな自然環境、地域の協力等を生かして、義務教育学校9年間を見通した小中一貫教育の更なる充実を図る。
- ・ 全教職員によるチームアプローチ・・・全教職員が一丸となって、児童生徒の学びと成長を支援する。日常の情報交換を大切にしつつ、定期的な職員会議や研修を通して共通理解を深め、積極的に学校運営に参画する。
- ・ ICTの活用・・・2ndGIGAを迎えるにあたり、ICTを効果的に活用した指導の個別化と学習の個性化を通じて、児童生徒の「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現に向けた取組を更に進める。
- ・ 協働活動の推進・・・児童生徒会活動や宕陰太鼓などの協働活動を通して、子ども同士のより良い人間関係の構築を図るとともに、人を思いやる心を育成する。
- ・ 家庭・地域との連携・・・児童養護施設と緊密に連携を図り、施設措置児童生徒の学力定着と社会性の育成を目指した取組を推進する。また、「宕陰校だより」やホームページを通した広報活動を活発にしたり、自由参観や学校評価アンケートを実施したりすることを通して、家庭・地域と連携した学校づくりを推進する。
- ・ 教職員の専門性の育成・・・外部の研修会等に積極的に参加する。また教職員同士の情報共有や校内研究会を促進し、専門性の向上を図る。
- ・ 教育課程の組織的な編成・・・教科の専門性を生かした指導に当たる。またカリキュラム・マネジメントを意識した教科横断的な学習を進め、児童生徒の学びをより効果的に支援し、成長を促す。
- ・ 働き方改革の推進・・・風通しのよい職場を目指し、教職員の健康維持のため、校務の効率化、適切な勤務時間の設定を行い、働き方改革をより推進する。
- ・ 架け橋プログラムの取組・・・地域の未就学児に本校の行事などに招待し、児童生徒と交流の場を設けることにより、本校の取組を知ってもらう機会とし、行ってみたい地域の学校を目指す。